やる気アップで漢字をマスター

―『まんてんスキル漢字』の効果的な活用をめざして―

香川県高松市立下笠居小学校教諭　白川 恵美子

1 子どもたちにとって頭の痛い漢字

「国語って漢字があるから，嫌い。」「うわあ，また漢字の宿題。」など，子どもたちに敬遠されがちな漢字。書くことも覚えることも面倒くさい。画数が多くて覚えきれない。そんな印象がつきまとう漢字に対して，少しでもプラスのイメージを与えたい。

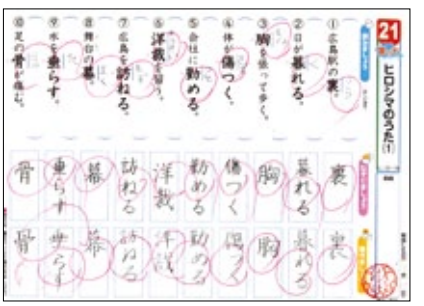
漢字には深い意味があり，なかなかおもしろい。ぜひ，使ってみたい。そのようなイメージの転換を子どもたちに呼び起こさせるような取り組みはできないものか…と願い，つたない実践を手探りで行っています。まだまだ，これでいけるという実感は得ていませんが，『まんてんスキル漢字』を使って取り組んだ漢字学習の様子を紹介させていただきます。

2 『まんてんスキル漢字』でいける…採用の理由

数ある漢字ドリルの中から『まんてんスキル漢字』を採用したのには，３つの理由があります。

１点目，ゆったりとした誌面構成をしているため，子どもたちの漢字練習に対する抵抗感が少ないと考えたこと。新出漢字は１ページに多くとも５つとなっています。練習用のマスも書くスペースが大きいので，丁寧に練習することができます。

▶『まんてんスキル漢字』の新出漢字を学習するページ。



◀新出漢字の「読み」，「なぞり」，「書き」を練習できるページ。

２点目，工夫した誌面構成をしているため，子どもたちが興味をもって手にすることができると考えたこと。新出漢字の上にしんべエやおシゲちゃんのマークを付け，読みや書きの間違いが多い漢字だと意識できるようにしていることも，漢字を意識づけながら覚える一つのポイントとなるだろうと考えました。また，下部の漢字イラストも多すぎず，子どもたちが興味をもって読める内容だと感じました。

３点目，巻末にあるテストを学期の最後に総仕上げとして利用することができると考えたこと。ドリルに書き込みをしても，ノートに練習をしても，なかなか定着しないのが漢字です。次から次へと新しい漢字が入ってくると以前覚

えたものは出ていってしまう。そんな不安をきっと子どもたちは感じていると思います。だから，どの漢字が定着し，どれをまだ覚えきれていないかを自己分析するために，巻末のテストを利用します。学期の最後に自分なりにどんどん進め，全部クリアすれば合格とすることにしました。

③漢字練習のステップ１～６

▶ステップ１　新出漢字をドリルに書き込む

この作業は，子どもたちなりに上手く時間を生み出して取り組んでいます。「○ページ，書き込み明日まで」ということは子どもたちの意識にあるので，授業前のほんの少しの時間や，早く学習が終わった子どもはその後の時間を使って行っています。最初の１ページは授業時間内に丸付けし，正しく書けているかを確認しておきます。どの子もそこまでは丸をもらってから帰ります。２ページ目の書き込みまで進めなかった子は，家庭学習でやってきます。６年生ということもあり，授業の中で，新出漢字を板書し，１文字ずつ指導する時間はほとんどとれません。よって，子どもたちにどれだけ漢字を意識づけさせるかがポイントになってくるでしょう。しかし，このステップ１では，ただ見て書いているという段階でとどまり，覚えるところまでいっていない子どもが大半です。

▶ステップ２　新出漢字をノートに書く

いよいよ，覚えるという段階に入ります。書いて覚えるということが習慣化されるように，１日に取り組む漢字は３～４文字にしました。これは，家庭学習で丁寧に行うようにしました。

この時，漢字のどの部分が要注意かを自分で見つけ，丸を付けさせるようにしました。やみくもに漢字を覚えるのではなく，いくつかのパーツから成り立っていることを意識するとより覚えやすくなると思われます。丸を付けながら，

「あっ，あの漢字に似ている。気を付けなくては…。」とか，

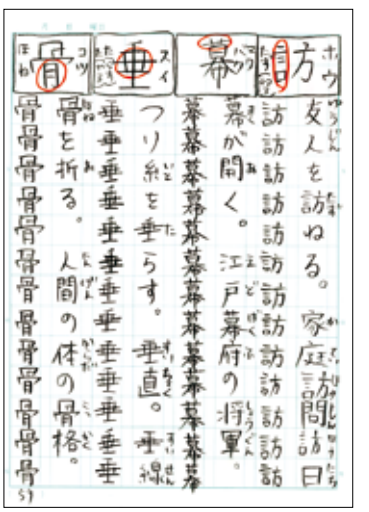
「この前習ったあの漢字と同じ部首だ。」

などと想起できることが大切だと思います。自分が覚えにくいと感じ，丸を付けたところを意識しながら，ノートに練習をするようにさせました。

また，その日に練習する漢字３～４文字は黒板に板書して，常に意識できるように配慮しました。

このように，新出漢字10文字を３日かけてノートに練習するようにしました。

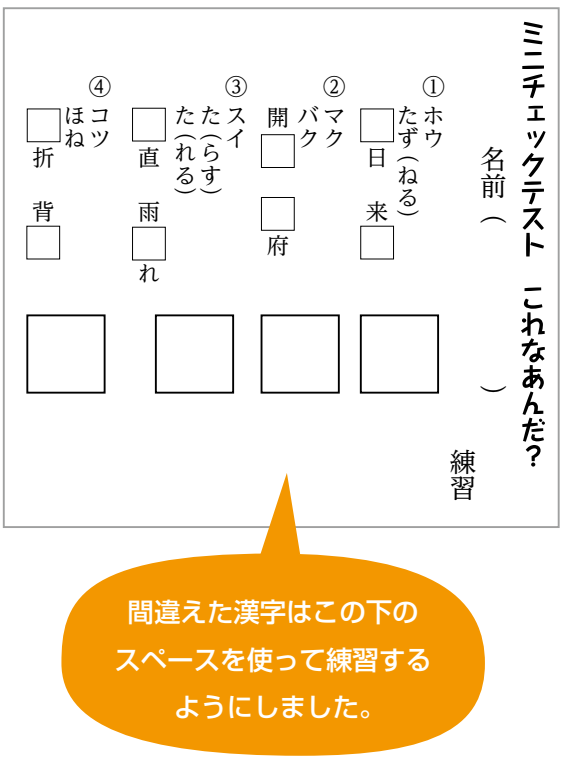
▶漢字練習のノート。



黒板に掲示

▶ステップ３　次の日にミニチェックテスト

このテストは，定着しているかを見取るための簡単なテストです。ほんの５分もあればできます。ここで工夫していることは，音読み，訓読み，簡単な熟語を挙げて，その漢字を書かせるということです。漢字を正確に書くということをねらうとともに，音読み，訓読みに対する興味も高めたいと考えました。



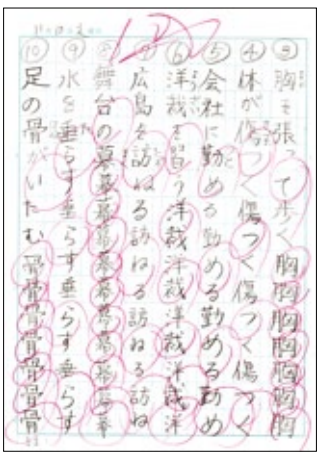
間違えた漢字はこの下のスペースを使って練習するようにしました。

▶ステップ４　スキルの「読みましょう」・「書きましょう」コーナーへの書き込み

新出漢字は漢字練習，ミニチェックテストである程度定着しているので，ステップ４のスキルへの書き込みに対する抵抗は少なくなっています。しかし，あいまいに覚えていたり，雑に練習したりしている場合もあります。とめ，はねまで意識して丁寧に練習できているかをチェックするようにしています。

▶ステップ５　ここは頑張りどころ　ノートに練習して確認テストに備えよう

スキルに書き込みをした10問をノートに練習させます。次の日の朝，ドリルタイムでこの10問テストを行います。順番は入れ替えるものの，全く同じ問題を出題するようにしています。最後の頑張りが要求されるところです。練習してきたノートは必ず一つひとつチェックするようにしています。全部きちんと練習できているノートには100点を付けます。この100点は意欲点として評価すると子どもたちにも話しています。100点ノートをめざして丁寧に練習してくる子どもたちが増えてきました。



◀漢字練習のノート。

▶ステップ６　次の日に確認テスト

ここで１つのサイクルである10文字の学習が終わるという形を取っています。定着率が悪い場合は，次の週も同じところの確認テストを行うようにしています。この確認テストは，ファイルを作り，年間を通して綴じていきます。ときおり見返して，自分の学びの足跡を振り返ることもできます。

このような６つのステップで漢字学習を進めています。１週間を通しておおよその目安を子

どもたちと立てて進めています。ステップ６の確認テストは全校をあげての漢字タイムで行います。それが，木曜日の朝の活動の時間（15分間）です。よって，１週間を次のように計画しています。

木曜日
朝…ステップ６　確認テスト
ステップ１　書き込み
（宿題のため，最初のページは確認しておく）
ステップ２　３文字ノート練習

金曜日
ステップ３　チェックテスト
ステップ２　３文字ノート練習

月曜日
ステップ３　チェックテスト
ステップ２　４文字ノート練習

火曜日
ステップ３　チェックテスト
ステップ４　「読みましょう」「書きましょう」書き込み

水曜日
ステップ５　「読みましょう」「書きましょう」ノート練習

スモールステップで
着実に力を付けよう

④ 終わりに

最初はただやみくもに漢字を書いて覚えさせようとしていました。
「えっ，また漢字…。」
こんな声を聞いても子どもたちのためと思い，何の工夫もせず，与え続けてきたように思います。

しかし，ただ書くだけでは，覚えられていない。まして，子どもたちの意識に，書かされている感だけが充満し，覚えようとしていないと感じたのです。もっと，子ども自身が手ごたえを感じられるようにしなくてはいけない。そう思ってステップ２とステップ３を取り入れることにしました。
「せっかく練習したのに…。」
と，テストで落胆させる前に，もっと細かく手を打とうと考えたのです。

少しずつの漢字練習も習慣化されるとそんなに苦痛を感じなくなりました。３文字，４文字という気楽さもよかったようです。そして，そのチェックテストは，普段漢字に苦手意識をもっている子どもたちにも，漢字１文字書けばよいということでそれほどの抵抗感はありませんでした。おまけに，できるのです。わかる，できるということが自信につながっていい効果を生んでいったように思います。

この取り組みによって，確認テストの点数も向上しました。

しかし，まだまだ，取り組めていないことはあります。

漢字にもっと興味をもたせるため，新出漢字について自分で調べ，まとめるという取り組みも，今後行いたいと考えています。 使い方や熟語，意味などを調べたり，反対の意味の漢字や対になる漢字，熟語の構成にもふれられるともっと漢字がおもしろく感じられることでしょう。

このような指導を取り入れながら，子どもたちに確かな言葉の力が付けられるよう，引き続き努力していきたいと考えています。